

平成18年度化学物質管理目標等報告の概要

県では、人の健康や動植物の生息、生育に影響を及ぼすおそれのある 354 種類の化学物質について、環境への排出量を削減するため、「神奈川県生活環境の保全等に関する条例」（以下「条例」といいます。）に基づく制度により、事業者に対して化学物質の管理目標の設定とその達成状況等の報告を求めています。

このたび、平成 18 年度に事業者から報告があった管理目標の設定と目標の達成状況等について取りまとめましたので、お知らせします。

1 報告状況

平成 18 年度には条例に基づき、県域^{*1}全体で 1,039 事業所^{*2}（前年度 956 事業所）から、化学物質の取扱い量及び管理目標、その達成状況について報告がありました（図 1）。

なお、報告事業所のうち、56 事業所は化管法届出対象外となったため、目標の達成状況のみの報告となっています。また、化管法届出対象事業所で報告を行わなかった事業所は 36 事業所、平成 17 年度化管法届出対象外となった事業所で目標の達成状況の報告を行わなかった事業所は 18 事業所でした。

※1 条例の適用外である横浜市及び川崎市を除いた地域をいいます。

※2 「特定化学物質の環境への排出量及び管理の促進に関する法律」（以下「化管法」といいます。）の届出対象事業者をいいます。

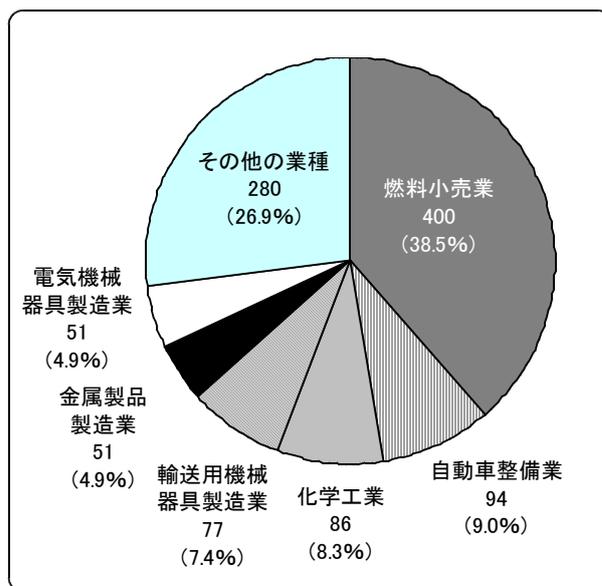


図1 業種別報告事業所数

2 化学物質の取扱い状況

条例に基づく事業所における化学物質の取扱い量（使用量及び製造量）の報告、化管法に基づく環境への排出量、下水道等への移動量を集計したところ、平成 17 年度の県域における化学物質の取扱い量 307,518 トンのうち、製品などとして 293,330 トン（95.4 %）が使用され、環境への排出量は 7,099 トン（2.3 %）でした（図 2）。

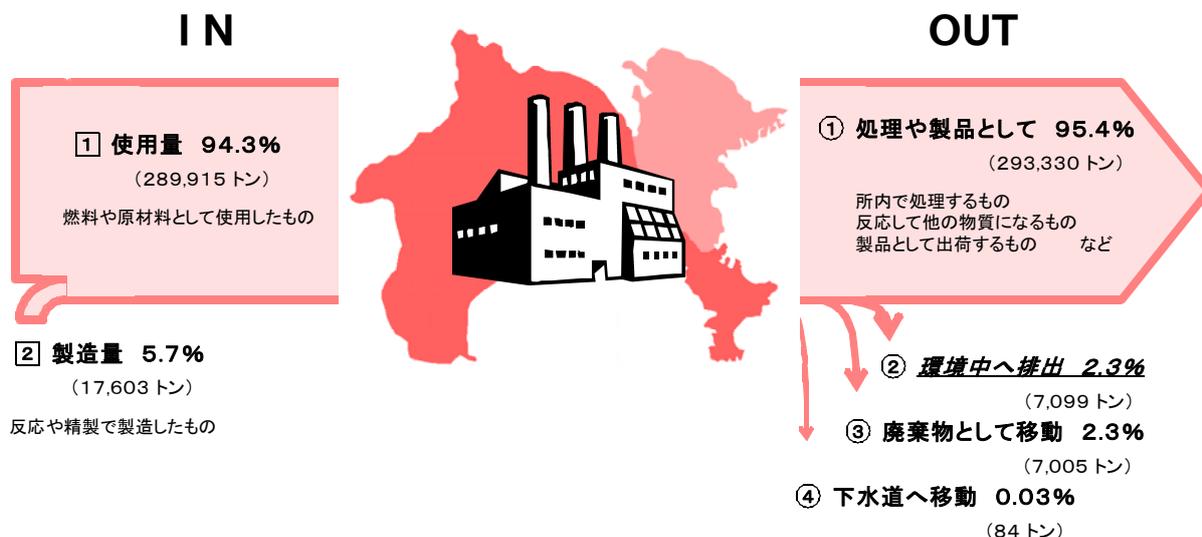


図2 県域における化学物質の取扱い状況

3 平成17年度の化学物質管理目標の達成状況と平成18年度の目標

(1) 排出量

平成17年度の管理目標（排出量削減目標）は平成16年度の排出量から407トン削減される目標となっており、削減実績^{※1}は593トンとなり目標を達成しました（図3）。

また、平成18年度の管理目標（排出量削減目標）は平成17年度の排出量から160トン削減される目標となっており、目標が達成されると平成18年度の排出量は6,938トンとなり、平成17年度と比較して2.3%削減されます（図3）。

なお、それぞれの量は1トン未満で四捨五入しているため、数値が合わない場合があります（以下同じ。）。

※1 削減実績は化管法届出排出量を用いています（以下同じ。）。

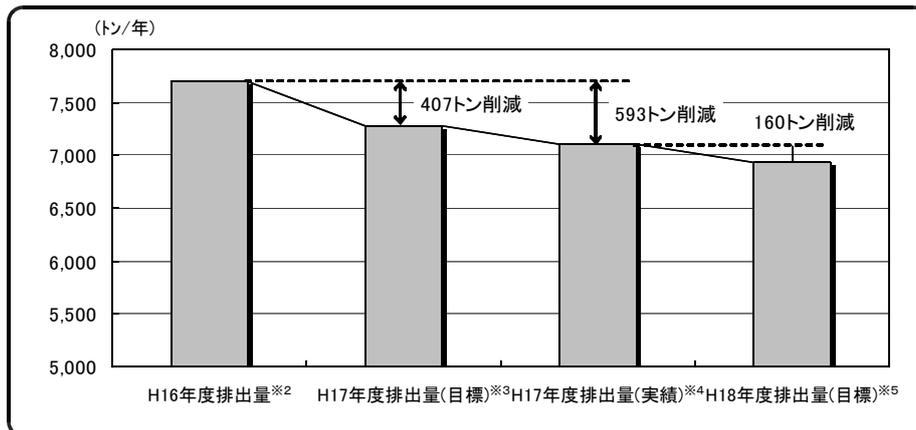


図3 排出量の削減目標と実績

※2 平成16年度排出量

※4 平成17年度排出量

※3 平成16年度排出量から平成16年度管理目標（排出量削減目標）を引いたもの

※5 平成17年度排出量から平成17年度管理目標（排出量削減目標）を引いたもの

(2) 取扱量

平成17年度の管理目標（取扱量削減目標）は平成16年の取扱量から1,832トン削減される目標となっており、削減実績は6,242トンとなり目標を達成しました（図4）。

また、平成18年度の管理目標（取扱量削減目標）は平成17年度取扱量から1,937トン削減される目標となっており、目標が達成されると平成18年度取扱量は305,581トンとなり、平成17年度と比較して0.6%削減されます（図4）。

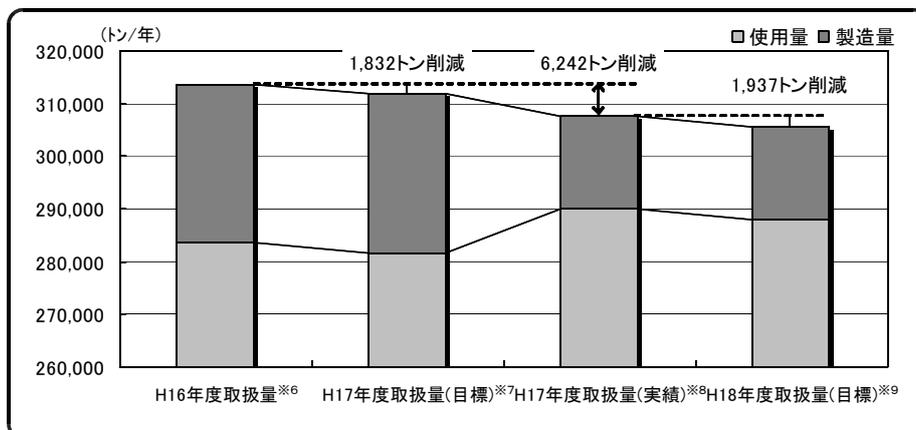


図4 取扱量の削減目標と実績

※6 平成16年度取扱量

※8 平成17年度取扱量

※7 平成16年度取扱量から平成16年度管理目標（取扱量削減目標）を引いたもの

※9 平成17年度取扱量から平成17年度管理目標（取扱量削減目標）を引いたもの

(3)物質別の管理目標について

ア 排出量

物質別の平成17年度の管理目標の達成状況（排出量削減目標）については、合成原料や溶剤などとして使用されるトルエン、塩化メチル、脱脂洗浄剤や溶剤などとして使用される塩化メチレンは目標を達成しました。特に、削減目標が最も大きかったトルエンは目標の2倍以上削減されましたが、合成原料や溶剤などとして使用されているキシレンなどは達成しませんでした。

平成18年度の目標の設定状況については、削減目標の多いトルエン、キシレン、塩化メチレンの3物質で削減目標全体の8割以上を占めていました。これらの物質を削減する主な理由として、事業所からの排出量が多いことが挙げられていました。

■平成17年度管理目標（排出量削減目標）の達成状況《物質別、排出量削減目標順》

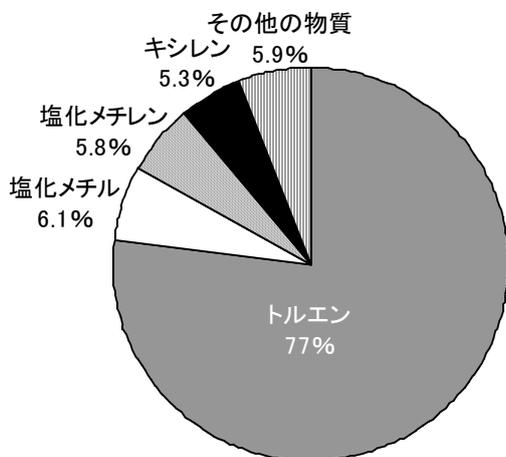
物質名	H17削減目標	H17削減実績	達成状況
① トルエン	313トン/年	732トン/年	達成
② 塩化メチル	25トン/年	48トン/年	達成
③ 塩化メチレン	23トン/年	90トン/年	達成
④ キシレン	22トン/年	-167トン/年	未達成
● その他の物質	24トン/年	-110トン/年	未達成
● 全物質計	407トン/年	593トン/年	達成

※1 平成17年度の実績は、平成16年度排出量から平成17年度排出量を引いた値で、マイナスの値は排出量が増加していることを示しています（以下、同じ。）。

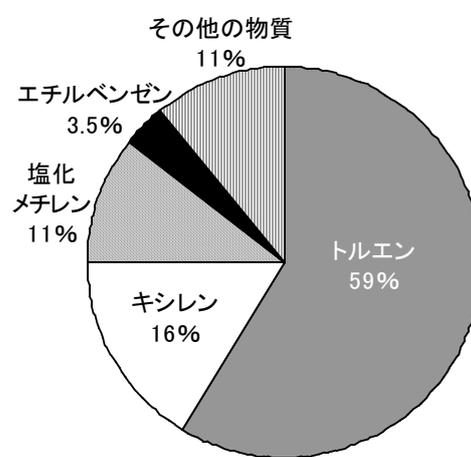
※2 それぞれの数値は小数点以下で四捨五入しているため、合計した数値と異なる場合があります（以下、同じ。）

■平成18年度管理目標（排出量削減目標）の設定状況《物質別、排出量削減目標順》

物質名	H18削減目標	【参考】排出量の実績と目標	
		H17排出量(実績)	H18排出量(目標)
① トルエン	94トン/年	2,635トン/年	2,541トン/年
② キシレン	26トン/年	2,467トン/年	2,441トン/年
③ 塩化メチレン	17トン/年	587トン/年	570トン/年
④ エチルベンゼン	6トン/年	846トン/年	841トン/年
● その他の物質	17トン/年	563トン/年	546トン/年
● 全物質計	160トン/年	7,099トン/年	6,938トン/年



物質別排出量削減目標の割合(平成17年度)



物質別排出量削減目標の割合(平成18年度)

イ 取扱量

物質別の平成 17 年度の管理目標（取扱量削減目標）の達成状況については、削減目標が最も大きいトルエンの取扱量が前年度よりも大幅に増加しましたが、合成原料や殺菌剤として使用されるエチレンオキシド、合成樹脂の安定剤などとして使用される有機スズ化合物などは目標を達成しました。

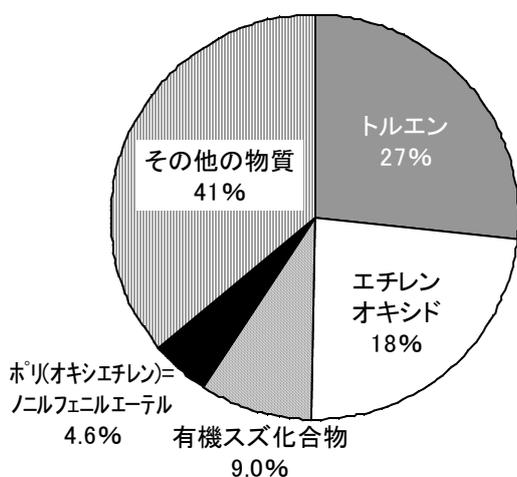
平成 18 年度の目標の設定状況については、削減目標が最も大きい物質はエチレンオキシドで、削減する理由として、有害性が高い物質であることが挙げられていました。

■平成 17 年度管理目標（取扱量削減目標）の達成状況《物質別、取扱量削減目標順》

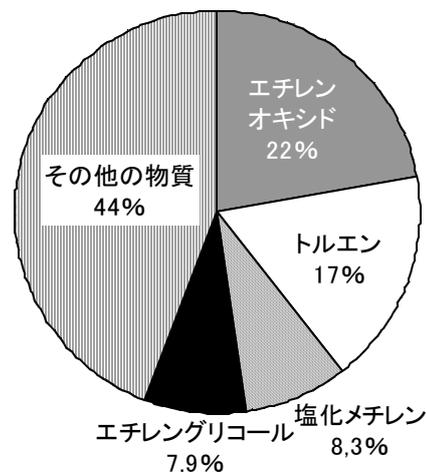
物質名	H17 削減目標	H17 削減実績	達成状況
① トルエン	491 トン/年	-4,223 トン/年	未達成
② エチレンオキシド	430 トン/年	999 トン/年	達成
③ 有機スズ化合物	164 トン/年	367 トン/年	達成
④ ポリ(オキシエチレン)= ニルフェルエーテル	84 トン/年	213 トン/年	達成
● その他の物質	664 トン/年	8,886 トン/年	達成
● 全物質計	1,832 トン/年	6,242 トン/年	達成

■平成 18 年度管理目標（取扱量削減目標）の設定状況《物質別、取扱量削減目標順》

物質名	H18 削減目標	【参考】取扱量の実績と目標	
		H17 取扱量(実績)	H18 取扱量(目標)
① エチレンオキシド	430 トン/年	12,003 トン/年	11,572 トン/年
② トルエン	336 トン/年	96,246 トン/年	95,910 トン/年
③ 塩化メチレン	161 トン/年	1,154 トン/年	993 トン/年
④ エチレングリコール	154 トン/年	5,988 トン/年	5,834 トン/年
● その他の物質	856 トン/年	192,128 トン/年	191,272 トン/年
● 全物質計	1,937 トン/年	307,518 トン/年	305,581 トン/年



物質別取扱量削減目標の割合(平成17年度)



物質別取扱量削減目標の割合(平成18年度)

(4)用途別の管理目標について

ア 排出量

用途別の平成 17 年度の管理目標（排出量削減目標）の達成状況については、削減目標の最も大きい「溶剤、塗料など」は目標を達成しませんでした。2番目に大きい「洗浄、界面活性剤など」は目標の4倍近く削減されました。

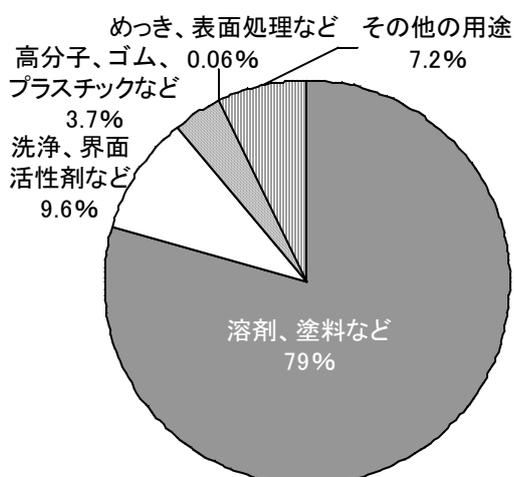
平成 18 年度の目標の設定状況については、17 年度と同様、「溶剤、塗料など」が削減目標が最も大きくなっていました。これらの物質を削減する主な理由として、事業所からの排出量が多いことが挙げられていました。

■平成 17 年度管理目標（排出量削減目標）の達成状況《用途別、排出量削減目標順》

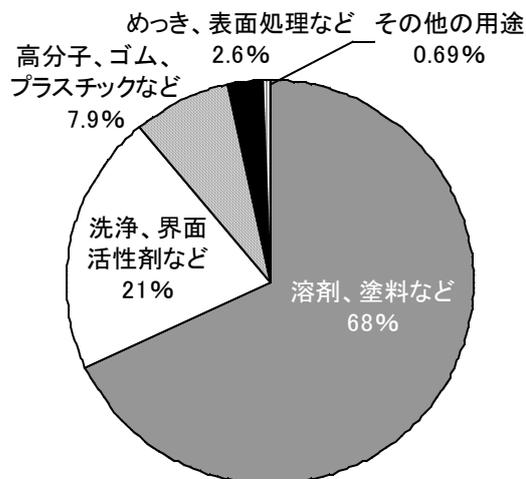
用途	H17 削減目標	H17 削減実績	達成状況
① 溶剤、塗料など	323 トン/年	-275 トン/年	未達成
② 洗浄、界面活性剤など	39 トン/年	153 トン/年	達成
③ 高分子、ゴム、プラスチックなど	15 トン/年	5 トン/年	未達成
④ めっき、表面処理など	0.3 トン/年	-2 トン/年	未達成
● その他の用途	29 トン/年	712 トン/年	達成
● 全用途計	407 トン/年	593 トン/年	達成

■平成 18 年度管理目標（排出量削減目標）の設定状況《用途別、排出量削減目標順》

用途	H18 削減目標	【参考】排出量の実績と目標	
		H17 排出量(実績)	H18 排出量(目標)
① 溶剤、塗料など	109 トン/年	5,916 トン/年	5,807 トン/年
② 洗浄、界面活性剤など	33 トン/年	568 トン/年	535 トン/年
③ 高分子、ゴム、プラスチックなど	13 トン/年	205 トン/年	192 トン/年
④ めっき、表面処理など	4 トン/年	24 トン/年	20 トン/年
● その他の用途	1 トン/年	385 トン/年	385 トン/年
● 全用途計	160 トン/年	7,099 トン/年	6,938 トン/年



用途別排出量削減目標の割合(平成17年度)



用途別排出量削減目標の割合(平成18年度)

イ 取扱量

用途別の平成 17 年度の管理目標（取扱量削減目標）の達成状況については、削減目標が最も大きい「溶剤、塗料など」で目標の約5倍削減されました。「洗浄、界面活性剤など」も目標の2倍以上削減されましたが、「高分子、ゴム、プラスチックなど」や「はんだ、合金ガラスなど」は取扱量が前年度より増加しました。

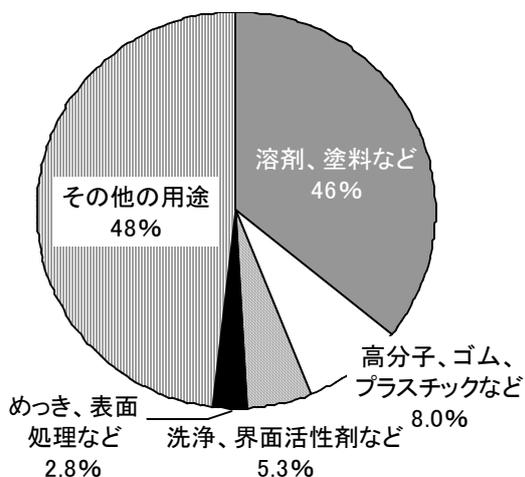
平成 18 年度の目標の設定状況については、17 年度と同様、「溶剤、塗料など」の削減目標が最も大きくなっていました。これらの物質を削減する主な理由として、事業所における取扱量が多いことのほか、法令による規制対応が挙げられていました。

■平成 17 年度管理目標（取扱量削減目標）の達成状況《用途別、取扱量削減目標順》

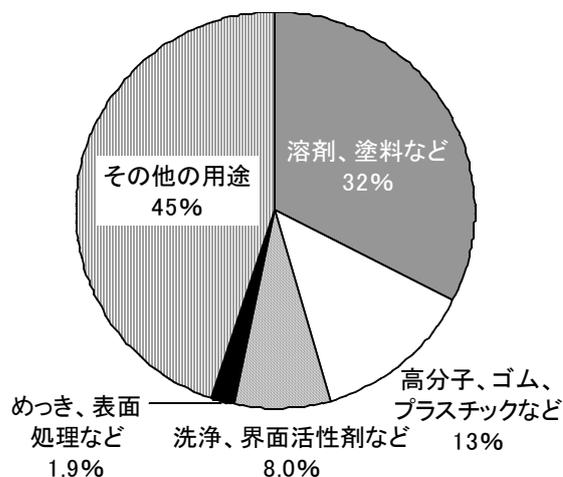
用名	H17 削減目標	H17 削減実績	達成状況
① 溶剤、塗料など	655 トン/年	3,349 トン/年	達成
② 高分子、ゴム、プラスチックなど	147 トン/年	-178 トン/年	未達成
③ 洗浄、界面活性剤など	98 トン/年	202 トン/年	達成
④ はんだ、合金、ガラスなど	51 トン/年	-313 トン/年	未達成
● その他の用途	881 トン/年	3,182 トン/年	達成
● 全用途計	1,832 トン/年	6,242 トン/年	達成

■平成 18 年度管理目標（取扱量削減目標）の設定状況《用途別、取扱量削減目標順》

用名	H18 削減目標	【参考】取扱量の実績と目標	
		H17 取扱量(実績)	H18 取扱量(目標)
① 溶剤、塗料など	628 トン/年	49,419 トン/年	48,791 トン/年
② 高分子、ゴム、プラスチックなど	252 トン/年	30,308 トン/年	30,056 トン/年
③ 洗浄、界面活性剤など	156 トン/年	3,365 トン/年	3,209 トン/年
④ めっき、表面処理など	36 トン/年	4,402 トン/年	4,366 トン/年
● その他の用途	865 トン/年	220,024 トン/年	219,159 トン/年
● 全用途計	1,937 トン/年	307,518 トン/年	305,581 トン/年



用途別排出量削減目標の割合 (平成17年度)



用途別排出量削減目標の割合 (平成18年度)

(5)業種別の管理目標について

ア 排出量

業種別の平成 17 年度の管理目標（排出削減目標量）の達成状況については、ゴム製品製造業、化学工業、出版・印刷・同関連産業の 3 業種で目標の約 2 倍削減しましたが、輸送用機械器具製造業では排出量が前年度より増加しました。

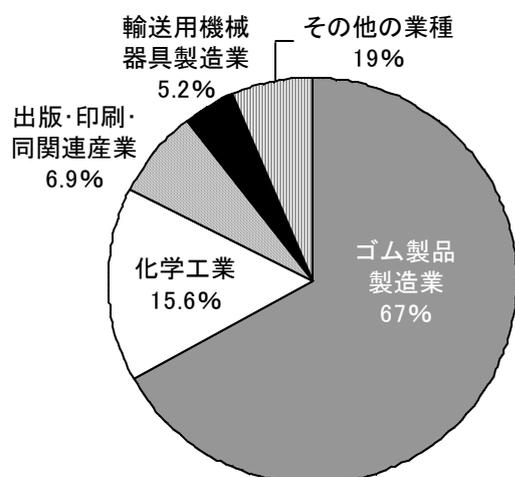
平成 18 年度の目標の設定状況については、前年度と同様、ゴム製品製造業、化学工業の 2 業種で、全体の 6 割近くを占めていました。これらの業種での削減理由としては、事業所からの排出量などが多いことが最も多かったほか、有害性が高い物質であることや法令による規制対応が挙げられていました。

■平成 17 年度管理目標（排出量削減目標）の達成状況《業種別、排出量削減目標順》

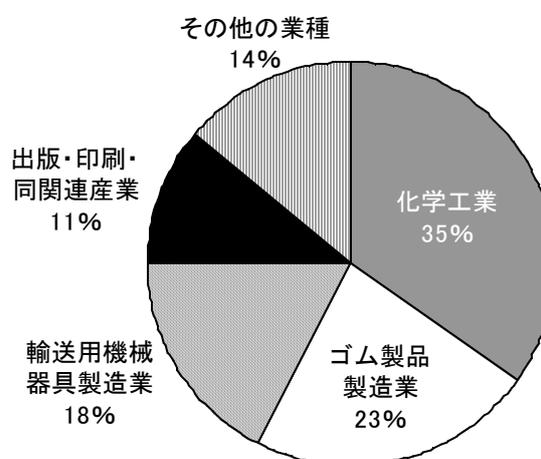
業 種	H17 削減目標	H17 削減実績	達成状況
① ゴム製品製造業	273 トン/年	469 トン/年	達 成
② 化学工業	63 トン/年	120 トン/年	達 成
③ 出版・印刷・同関連産業	28 トン/年	79 トン/年	達 成
④ 輸送用機械器具製造業	17 トン/年	-289 トン/年	未達成
● その他の業種	26 トン/年	214 トン/年	達 成
● 全業種計	407 トン/年	593 トン/年	達 成

■平成 18 年度管理目標（排出量削減目標）の設定状況《業種別、排出量削減目標順》

業 種	H18 削減目標	【参考】排出量の実績と目標	
		H17 排出量(実績)	H18 排出量(目標)
① 化学工業	56 トン/年	634 トン/年	578 トン/年
② ゴム製品製造業	37 トン/年	641 トン/年	604 トン/年
③ 輸送用機械器具製造業	28 トン/年	4,083 トン/年	4,054 トン/年
④ 出版・印刷・同関連産業	18 トン/年	88 トン/年	70 トン/年
● その他の業種	22 トン/年	1,653 トン/年	1631 トン/年
● 全業種計	160 トン/年	7,099 トン/年	6,938 トン/年



業種別排出量削減目標の割合 (平成17年度)



業種別排出量削減目標の割合 (平成18年度)

イ 取扱量

業種別の平成 17 年度の管理目標（取扱量削減目標）の達成状況については、削減目標の最も大きい化学工業で目標の8倍近く削減しました。それ以外の目標が大きい業種は取扱量が前年度より増加し、特に、金属製品製造業では大幅に増加していました。

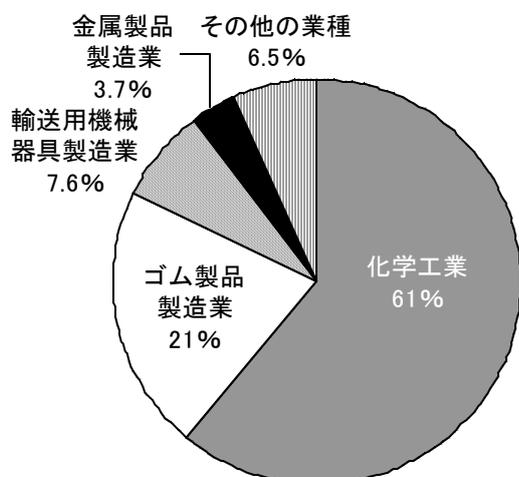
平成 18 年度の目標の設定状況については、化学工業が前年度とほぼ同じくらいの削減目標を設定しているほか、輸送用機械器具製造業が前年度の2倍の削減目標を設定しています。削減の理由としては、事業所における取扱量などが多いことに次いで、法令による規制対応が挙げられていました。

■平成 17 年度管理目標（取扱量削減目標）の達成状況《業種別、取扱量削減目標順》

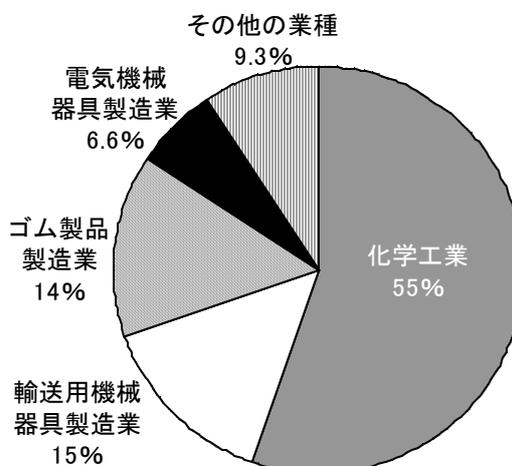
業 種	H17 削減目標	H17 削減実績	達成状況
① 化学工業	1,119 トン/年	8,531 トン/年	達 成
② ゴム製品製造業	386 トン/年	-143 トン/年	未達成
③ 輸送用機械器具製造業	140 トン/年	-1,590 トン/年	未達成
④ 金属製品製造業	67 トン/年	-8,837 トン/年	未達成
● その他の業種	120 トン/年	8,281 トン/年	達 成
● 全業種計	1,832 トン/年	6,242 トン/年	達 成

■平成 18 年度管理目標（取扱量削減目標）の設定状況《業種別、取扱量削減目標順》

業 種	H18 削減目標	【参考】取扱量の実績と目標	
		H17 取扱量(実績)	H18 取扱量(目標)
① 化学工業	1,069 トン/年	91,620 トン/年	90,551 トン/年
② 輸送用機械器具製造業	282 トン/年	15,283 トン/年	15,001 トン/年
③ ゴム製品製造業	279 トン/年	5,655 トン/年	5,376 トン/年
④ 電気機械器具製造業	128 トン/年	17,844 トン/年	17,716 トン/年
● その他の業種	180 トン/年	177,116 トン/年	176,936 トン/年
● 全業種計	1,937 トン/年	307,518 トン/年	305,581 トン/年



業種別取扱量削減目標の割合(平成17年度)



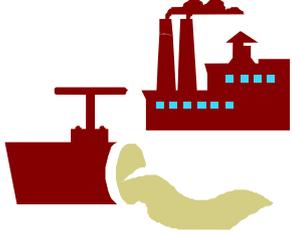
業種別取扱量削減目標の割合(平成18年度)

(6) 排出量及び取扱量の削減取組状況

平成 18 年度の取組内容別の排出量及び取扱量については、排出量、取扱量ともに、使用量等の見直しが最も多くなっており、まず、使用量そのものを減らすことにより、削減を図ろうとしていることが分かります。次いで、低毒性の物質への代替による削減を行おうとしています。

■取組内容別の排出量削減目標（平成 18 年度排出量削減目標：160 トン/年）

① 使用量及び使用計画の見直し	45 トン/年
② 公害防止装置の設置・改善	30 トン/年
③ 低毒性の化学物質への代替	30 トン/年
④ 設備改善を含む使用工程の効率化	26 トン/年
⑤ 管理体制の強化	1 トン/年
● その他	29 トン/年



■取組内容別の取扱量削減目標（平成 18 年度取扱量削減目標：1,937 トン）

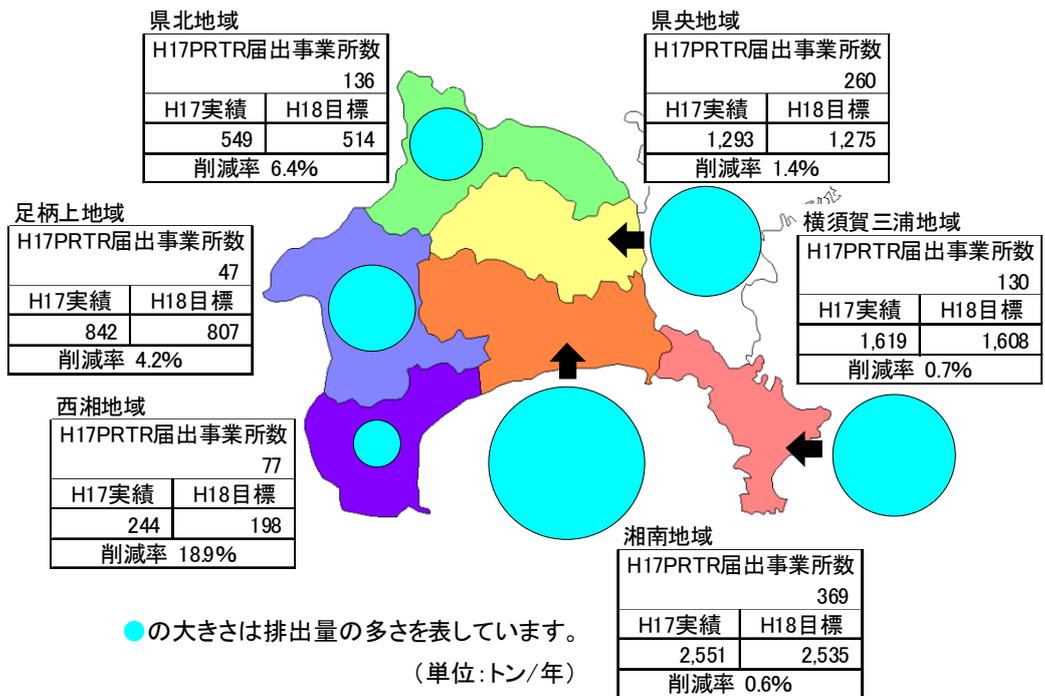
① 使用量及び使用計画の見直し	1,041 トン/年
② 低毒性の化学物質への代替	457 トン/年
③ 設備改善を含む使用工程の効率化	125 トン/年
④ 公害防止装置の設置・改善	21 トン/年
⑤ 管理体制の強化	11 トン/年
● その他	281 トン/年



化学物質管理の具体的な取組内容については、取組を行った事業者の協力を得た上で、事業者を対象とした講習会や県のホームページなどで紹介していく予定です。

(7) 地域別の排出状況

地域県政総合センター所管地域別の平成 17 年度の排出量及び平成 18 年度の目標排出量*は次のとおりです。1 事業所あたりの排出量が最も多い地域は足柄上地域、次いで横須賀三浦地域ですが、これは、製造等の規模が大きな事業所の割合が他の地域より高いことによります。



* 平成 18 年度の目標は平成 17 年度排出量から平成 17 年度排出量削減目標を引いたものです。

参 考

◆ 化学物質の排出量削減が大きかった事業所

平成 16 年度の排出量からの削減量^{※1}が大きかった上位 30 事業所は次のとおりです。最も削減量が多かった事業所は、設備改善により県域全体の削減量 407 トンを上回る 487 トンを削減しました。また、第 3 位の事業所では、公害防止設備の設置によりトルエンの排出を 99 %以上削減しました。

※1 削減量は平成 17 年度化管法届出排出量から平成 16 年度化管法届出排出量を引いたものです。

順位	業 種	所在地	削減量(トン)	主な削減物質
第1位	ゴム製品製造業	開成町	487	トルエン
第2位	輸送用機械器具製造業	横須賀市	107	トルエン
第3位	出版・印刷・同関連産業	相模原市	82	トルエン
第4位	化学工業	平塚市	44	塩化メチル
第5位	輸送用機械器具製造業	相模原市	41	トルエン
第6位	金属製品製造業	伊勢原市	39	塩化メチレン
第7位	輸送用機械器具製造業	横須賀市	27	トルエン
第8位	プラスチック製品製造業	厚木市	26	塩化メチレン
第9位	化学工業	小田原市	26	トルエン
第10位	輸送用機械器具製造業	平塚市	26	キシレン
第11位	ゴム製品製造業	平塚市	19	H C F C - 141 b
第12位	化学工業	小田原市	18	N,N - ジメチルホルムアミド
第13位	化学工業	寒川町	18	臭化メチル
第14位	金属製品製造業	綾瀬市	18	キシレン
第15位	電気機械器具製造業	秦野市	15	キシレン
第16位	プラスチック製品製造業	横須賀市	14	トルエン
第17位	金属製品製造業	綾瀬市	10	トリクロロエチレン
第18位	化学工業	南足柄市	10	塩化メチレン
第19位	輸送用機械器具製造業	茅ヶ崎市	10	トルエン
第20位	プラスチック製品製造業	座間市	10	トルエン
第21位	その他の製造業	平塚市	9	トルエン
第22位	輸送用機械器具製造業	海老名市	9	トルエン
第23位	プラスチック製品製造業	横須賀市	8	塩化メチレン
第24位	一般機械器具製造業	茅ヶ崎市	8	H C F C - 141 b
第25位	輸送用機械器具製造業	大和市	8	トルエン
第26位	一般機械器具製造業	海老名市	7	トルエン
第27位	金属製品製造業	相模原市	7	トルエン
第28位	プラスチック製品製造業	平塚市	7	スチレン
第29位	非鉄金属製造業	平塚市	6	トリクロロエチレン
	輸送用機械器具製造業	厚木市	6	トルエン

※2 削減量は小数点以下を四捨五入しています。

